

## 保険業のドメスティック性とグローバル性

関西学院大学 岡田 太志

### 1. 報告の目的

保険業に係る規制緩和（規制改革）の方向性は、1980年代に、わが国を含めた国際的なトレンドとして明確となり、やがて国際的な金融融合や産業融合も視野に、関係諸機関において規制をはじめとする諸制度の国際的標準化と協調の可能性が持続的に追及されながら、こんにち、グローバリゼーションが強く意識される時代を迎えている。

こうした時代的背景の下で、この度、シンポジウムのサブテーマとして、「保険業のドメスティック性とグローバル性」が与えられた。グローバリゼーション、グローバリズムという用語については、学術分野と論者により多様ではあるが、定義がある。また実態として、グローバル化は保険業においても進展していると認められる。一方、ドメスティック性とは何か。それは、国家や地域、保険の分野や種目他によるものなのか。この点については、報告に先立つ打合会で、保険業はグローバリゼーションとどこまで親和性をもつのか、という問題意識が提示された。

本報告では、この課題に対し、改めて保険事業規制の論拠をサーベイし、続いて、Cummins and Venard による研究他を検討資料とし、この作業を通じて、保険業が有するドメスティック性とグローバル性の一面を明らかにし、同時に、わが国保険業の方向性を考える一助としたい。

### 2. 保険事業規制と市場規律の限界

民間による保険は市場を前提としているが、保険市場は完全ではなく、保険事業の展開にあたっては、多くの局面で多様な種類の情報の不均衡（情報の偏在）が認められる。また、一般的に、保険契約者は保険者に対して交渉力において劣位にある。そのため、各国において、これらの不均衡を解消し市場規律をより有効に働かせる方策が検討され、具体的に実施されてきたところである。これら一連の取り組みは、より抽象的には、情報の不均衡が複雑に錯綜する下で、種々のモラルハザードを一定程度抑止し、市場の失敗、組織の失敗、規制の失敗を回避すべく、同時に、保険システム全体としての整合性を保つインセンティブ・コントロール・システムをいかに構築するか、という問題であり、またガバナンスにも係る。そして、そこでは市場規律と情報開示、透明性、説明責任、自己責任がキーワードになっている。

保険事業規制については、市場規律を軸にそのあり方を検討するケースが多く見受けられるが、保険業においては、他の産業に比して、市場規律ははたしてどこまで効くのであろうか。保障および補償の対象となるリスクの特性、長期性といった諸点を勘案すると、その働きは実態として他の産業よりも強くまた避けがたく制約されざるをえないのではな

いか。ここに市場規律に依拠することの限界が認められる。

グローバリゼーションの進展により、個別保険経営・保険グループが抱える保険引受リスク、市場リスク、信用リスク、オペレーショナルリスク等は変容し、RM も精力的に検討され実行に移されている。市場規律に依拠することの意味、またそれを追求することの意義は十分に認められ、それは今後も決して否定されるものではない。しかしながら、同時に、それを軸とする制度設計には限界があり、その基盤は脆弱性を有するという事実は、ドメスティックな市場におけると同様に、グローバル市場においても認められよう。

### 3. グローバルな類似性とローカルな多様性

グローバリゼーションと各国・地域の事情との関係について、Cummins and Venard (2007)は、収入保険料総額、マーケットシェア、対GDP比、人口、等の基準により、16の国と地域、再保険市場、ロイズそしてARTを取り上げ、グローバルな類似性とローカルな多様性についても指摘している<sup>1</sup>。本報告では、これらをヒントに、その後の動向も勘案し、保険業のドメスティック性とグローバル性について考察する。

各国各地域の制度改革は必ずしも先験的・論理的基準のみに依る判断によって行われているものではない。それは、それぞれの国や地域の歴史的、経済的、文化的、社会的、そして技術的要因（IT、金融技術）を背景に、やがて民主的・政治的プロセスを経て決められていく。保険業も当然にその例外ではない。そのため、保険業の諸特性は、保険引受業務であれ資産運用業務であれ、必ずしも固定的なものではなく、それは、各国・各地域間で類似性を持ちながらも少なからず多様であり、また変容する。保険業の展開におけるグローバル性とドメスティック性の相克も、そうした下で理解されよう。

### 4. むすびにかえて

市場規律に依拠することに限界は認められながらも、それを追求する方向での改革はグローバルにもローカルにも続けられていくであろう。

保険業におけるドメスティック性は、一般物財産業のみならず金融他業との比較においても、おそらくより強い。また、保険業内にあつては、その分野や種目により、グローバル性やドメスティック性の程度に差異が認められる。

保険業は、その一義的機能から社会的には補助的商業である。そのため、保険業は、各国各地域において、社会を主導する地位を与えられたことはほとんどなく、特に変革期においては、先行するとされる他業からの影響を強く受けてきた。グローバル化の時代に、各保険経営ならびに各国規制当局にあつては、グローバル化とそれへの対応を追求すると同時に、時に社会的に看過されがちな保険の特殊性、ドメスティック性を再確認し、社会に対してもそれを積極的に主張していく姿勢が重要となってくるのではないかと。

---

<sup>1</sup> Cummins, J. D. and B. Venard (Eds.) (2007), *Handbook of International Insurance between Global Dynamics and Local Contingencies*, Springer.